太田川と柴木川の合流点に地域のランドマーク　出合橋（であいばし）

太田川とその支川柴木川の合流地点（広島県山県郡安芸太田町吉和郷）には、明神さんと呼ばれる滝御前（たきのみさき）神社があります。この地は、かつて広島への舟や筏（いかだ）の輸送に重要な役割を果たした川湊で、明神ケ浜の名も残っています。しかし、合流点という地形も加わって、度重なる洪水で被害を受けたため、人々は川に対し畏敬の念も持ち続けました。その象徴が明神さんで海川交通の守護神である宗像大社の三女神の一神、市杵島比売神（いちきしまひめのかみ）の分霊を祀り、加護を願ったそうです。この合流点に架かるのが白いアーチ橋「出合橋」（橋長 52.5 m、幅 6.8 m）です。柴木川と太田川本川が出合うことから付いた名だとも言われています。

昭和初期、三段峡の名声が高まり、観光開発が本格化したことで、三段峡を中核とした広域観光公園構想が脚光を浴びました。そこで、広島県に三段峡探勝路建設費補助願が出されると、町村道も昭和 4 年（1929）に実測、建設が始まり、昭和 10 年に開通式が行われました。この頃は全国で鉄筋コンクリート橋が浸透しつつあった時代で、箱根駅伝のルートとなっている箱根町の旭橋、千歳橋（昭和 8 年竣功）も出合橋と同じ鉄筋コンクリート造下路式タイドアーチ橋です。

一般的にこの型式では上路式（アーチの上を車が走る形式）で設計される場合がよく見られますが、山岳地の河川では河床までの距離が短く、支間長も短いため、上路式アーチでは災害時などに河川水の流れを阻害してしまう可能性があります。あわせて出合橋の場合は 2 河川の合流点であることから、濁流から守るためにも下路式アーチという設計がされたのではと考えられます。あたかも弓のような形でアーチを閉合しているのが特徴で、両端の地盤に水平力を負担させるのが難しい場合に採用されています。

令和 2 年 11 月、出合橋は安芸太田町戸河内地域と国特別名勝・三段峡をつなぐ重要な構造物であり、優美な姿から地域のランドマークになっていることが評価され、土木学会選奨土木遺産に認定されました。箱根町の旭橋・千歳橋はすでに平成 17 年（2005）に選奨土木遺産に認定されており、国立公園の玄関口に架かる橋という共通点も喜ばしいことです。

■位置図

太田川と柴木川の合流点
中央部に滝御前神社、白い橋が出合橋、左手の桁橋が明神橋

出合橋の高欄

出合橋　（橋長 52.5 m、幅員 6.8 m）
平成 23 年に床版の補強を実施、後部に見える赤い橋は新明神橋（国道 191 号）。

国の特別名勝「三段峡」